

京都電灯が進出した福井県

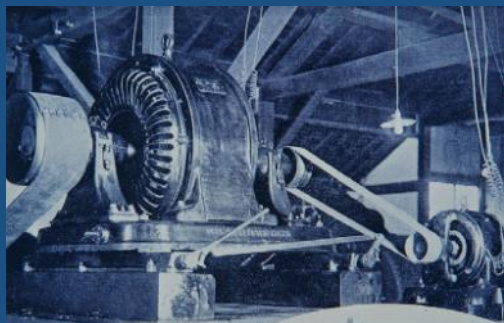
福井県では福井市在住の旧藩士で、当時貴族院多額納税者議員だった山田卓介と、京都電灯株式会社社長の大沢善助との間で電灯会社設立の計画が進められました。京都電灯は1887年（明治20）11月に設立された全国で4番目の電灯会社で、1892年（明治25）から京都市^{けいあけ}宮^{あすわ}蹴上発電所の電力供給を受けて営業していました。

二人は株式の半分を地元で募集しましたが期待したほどの応募が得られず、京都電灯の支社を設置することとしました。以前から電灯会社の設立を唱えていた高橋末太郎に実務を任せ、1897年（明治30）11月に足羽川^{あすわ}沿いの足羽郡^{さこう}酒生村^{しくぬの}宿布（現・福井市宿布町）に宿布発電所（80kW）の建設に着手しました。1898年（明治31）11月には京都電灯福井支社が設置され、宿布発電所は1899年（明治32）5月に運転を開始しました。発電機はアメリカのスタンレー社製80kW 1台、水車はアメリカのレッフェル社製120馬力カスパイラル水車 1台でした。

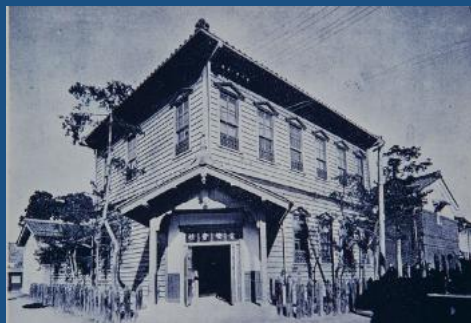
その後、滝波川^{たきなみ}で中尾発電所（600kW、1908年（明治41）7月運転開始）、足羽川^{あすわ}で小和清水発電所（900kW、1911年（明治44）11月運転開始）を建設しました。電灯供給の所要量を大幅に上回る発電力を確保した京都電灯福井支社は、県の補助金を得て鉄道事業に進出しました。1914年（大正3）4月には新福井－大野口間に越前電気鉄道を開通、所要時間は2時間26分でした*。

また、宿布発電所の建設は（現在の株式会社熊谷組の）熊谷三太郎が、中尾発電所は（現在の飛鳥建設株式会社の）飛嶋文次郎が、いずれも単独で引き受けた初めての水力発電工事でした。

*「福井日報」1914年4月10日



京都電灯宿布発電所



京都電灯福井支社



北陸電力
アーカイブギャラリー

Hokuriku Electric Power Company 北陸電力の歴史
ARCHIVE GALLERY